

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

**【短期指標】**  
 全国学力・学習状況調査において、全国平均以上  
 (国語A 100・同B 100・算数A 100・同B 100)

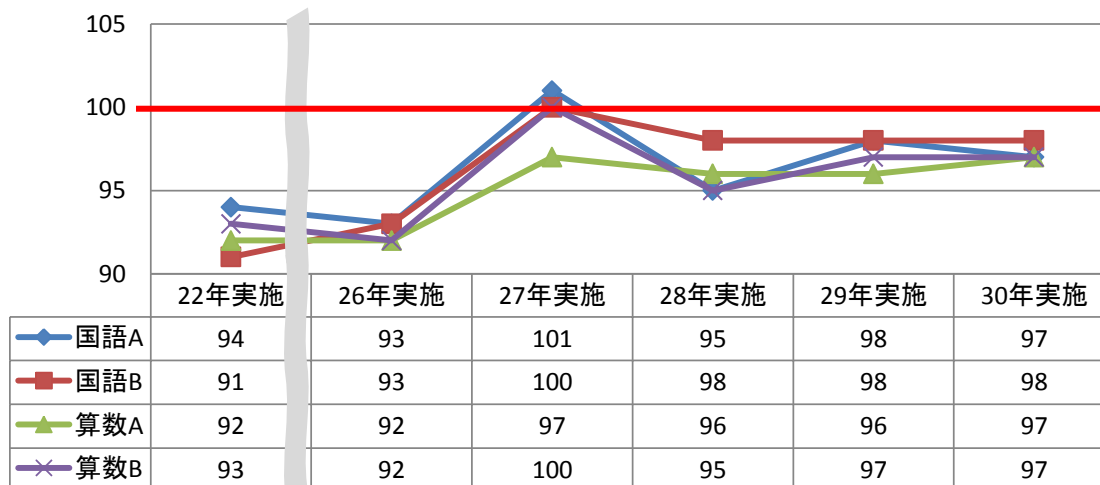
## 3.指標に向けての取組

- 複数指導体制による「朝の活動」の計画的な実施
- 算数科・国語科重点単元における習熟度別少人数分割授業等の実施
- 形成的評価による児童の学びの見取りを通じた指導と評価の一体化
- 家庭学習に既習の内容を組み入れた繰り返し学習の機会
- 家庭学習の質と量を確保するための家庭学習系統表の徹底・改善

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	97	98	97	97
嘉麻市	97	99	97	98
全国	100	100	100	100

## 推移



## 5.各学校における分析

国語A・B、算数A・Bの全てにおいて、指標を達成することができなかった。

国語Aでは、特に漢字の読み書きや熟語の意味理解、慣用句の意味理解が不十分であることが伺える。複数指導体制による「朝の活動」を計画的に実施し指導してきたが、今後は、朝の活動以外でも指導を工夫し、基礎基本の定着を図る必要がある。

国語Bでは、自分の考えを「書くこと」に、抵抗のある児童が多いことが分かった。書くことへの抵抗を減らすことができるような授業づくりが必要である。

算数Aでは、「数と計算」「数量関係」における基礎的な理解や技能の習熟が、不十分であることが分かった。重点単位における習熟度別少人数分割授業等を実施してきたが、今後は、「数と計算」「数量関係」における重点単元の見直しを行い、きめ細かな指導の徹底を図る必要がある。また、形成的評価を充実させ、一時間の授業の中で基礎基本の習得を確実にねらうような授業づくりを工夫する必要がある。さらに、習得したことを忘れないようにする仕組みも大切である。

算数Bでは、問われていることを読み取る力、必要な情報を整理したり関連付けたりする力が不十分であることが分かった。日常の授業の中で、情報を選択させたり、整理しながら問題解決を図ったり、半具体的・絵図的・言語的・記号的表現を関連付けて説明したりするような場面の設定等、工夫が必要である。

## 6.各学校における今後の取組

漢字の読み書きや語句の定着を図るために「朝の活動」に加え、授業や家庭学習を工夫して、繰り返し学習の機会を増やす。

「書くこと」への抵抗を減らし、学習意欲を高めるために、授業の前半と意見交流の後に、自分の考えを「書く活動」を必ず位置づける。書いたものをもとに一人一人の理解と成長を評価し、称賛する。

算数の理解や技能の定着を図るために「数と計算」「数量関係」の単元を中心に、少人数分割授業等を実施しきめ細やかな指導を行うとともに、単元の終末段階の指導の徹底を図る。また、「さよなら算数」「家庭学習」等によって繰り返し練習する時間を確保する。

B問題に対応する力をつけるために、「数量関係」の単元に絞って、単元の終わりに、情報過多の問題を読み取ったり情報を整理したり関連付けたりする問題に取り組ませる。

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

[嘉麻市学力向上推進プランに基づき、学力向上検証改善委員会を核として学力向上具体策の浸透・徹底を図る。]

嘉麻市教育アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想、各学校学力向上プランの関連を明確にし、具体策を全ての学級に浸透させる。

短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

学力向上プランの実効性を高めるための指導助言を行うとともに、各学校における効果的な実践の普及に努める。

指導と評価の一体化を図り、特に単元終末段階における習熟度別学習の充実を支援する。

繰り返しの指導が計画的に実施されるよう、カリキュラムマネジメントを推進する。

家庭学習の個別化を推進するとともに、取組に具体的な指標をもたせ、進捗状況を把握し支援を行う。

主幹教諭研修会を小中別分科会とし、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。

